

委託事業実施内容報告書
平成30年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

実施内容報告書

団体名：特定非営利活動法人フィリピンナガイサ

1. 事業の概要

事業名称	BAYANIHAN～みんなで地域をつくっていこう～
事業の目的	①定住フィリピン人がコミュニティ内に埋没するのを防ぐこと。 ②これまで連携してきた人や機関とともに培ってきたノウハウを地域に発信し、還元すること。 ③永住、定住傾向にあるフィリピン人に対して、「座学＋α」の付加価値を付けた日本語教室を開催すること。また、各学習者が自身の限られた時間を活用し日本語学習ができるよう、自己学習のHow toについても教授すること。（自律学習の必要性を伝える） ④「生活者として」の新しい層であるフィリピン人青年（以下、定住フィリピン人青年）の将来を見据えた支援を行うこと。 ⑤日本語がわからないことで生活に支障が出るようなケースについて対応できる、地域で活躍できるバイリンガル人材を支えること。（国籍問わず） ⑥「生活者としての外国人（以下、定住外国人）」の増加を見越し、彼らを取り巻く環境について対応するため、事業費の安定的な確保を検討していくこと。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	●近年、フィリピン人で形成するコミュニティの形状が、時代とともに変容しつつある。採択当時、かつては興行で来日したフィリピンの女性達が多かったが、今ではその呼び寄せの子供たちがいた。いっぽう、仕事を求めて来日している日系人家族の存在もあった。あらゆる層が「日本社会の入口の存在」を求め、それぞれの対象のニーズに即した日本語教育の必要性が高まっていた。しかし、現状そのような機会が整備されているとは言えず、特に青年世代については、支援が手薄であった。また、日本語教育が必要な対象が多様化していたため、時間的にも場所的にも日本語教室に通えない学習者も存在していた。 ●定住外国人の増加に伴い、行政サービス、災害、医療、教育、高齢に向けた準備などの福祉サービスが、日本人同様必要になってきている。ただ、これらのサービスを受けるのには多言語化、やさしい日本語の活用など、様々な準備が必要になると思われる。採択当時、このようなサービスに対する知識や関連する日本語能力を身に付ける機会が外国人に用意されていなかった。また、それに従事する人材の不足の現状が実態としてあった（バイリンガル支援者、コーディネーター）。また、これらの人材には日本語教育の観点から、日本語教育の重要性や基本的知識、スキル（やさしい日本語等）や他分野の内容であるが現在の日本語教室で求められる内容を身に付けてもらい、日本語教育の体制整備の一翼を担ってもらう必要があったが、そのような人材育成の機会が得られる場がなかった。 ●人材確保のためには資金調達の必要性もあるが、いっぽうで資金調達できる人材の確保も難しい。引き続きの課題である。
本事業の対象とする空白地域の状況	
事業内容の概要	取組1「ステップアップ教室」 日本語能力初級後半以上の人を対象とした。また、定住外国人支援に関心の高い日本人住民や公的機関の職員に募集告知した。実際に多くの方々に参加していただくことができた。本地域ですでに活躍しているバイリンガル人材と、今後、「バイリンガル能力を発揮して地域で活動したい」と考えている人たちににとって必要な知識獲得や、情報の提供を講座形式で行った。 取組2「バヤニハン日本語教室」 日本社会との接点がありませんフィリピン人が生活に必要な日本語を学ぶとともに、日本人と意思疎通を図る場を提供した。さらに、自己学習について後押しした。 取組3「定住フィリピン人青年のための日本語教室」 定住フィリピン人青年が、日本語を学ぶとともに社会体験する場を設けた。発表形式にも重点を置いた。 取組4「公開講座 BAYANIHAN*（バヤニハンプラス）」 定住外国人が知りたい情報、生活に役立つ情報として視線災害への備えや緊急時の通報訓練を実施した。また、地域住民や関係機関に「やさしい日本語」を使ったコミュニケーションの普及を図った。これまでの活動を通して培ってきたノウハウや情報を、地域に還元し、ネットワークの裾野を広げることを目的に掲げた。（一般公開） 取組5「定住フィリピン人青年の成果発表会」 定住フィリピン人青年たち自ら「学習や活動の成果発表」を行った。（一般公開） 取組6「日系フィリピン人への説明会」 ダバオに暮らす、来日を検討している日系フィリピン人に対して説明会を実施した。日本で生活する上で必要な日常会話や情報提供を行った。 取組7「ネットでバヤニハン」 様々な事情で教室に来ることができないフィリピン人たちが、情報収集や日本語学習ができる場をネット上に提供したり、やり取りを行った。その使い方を対面にてサポートする機会を設けることで、顔のわかる関係を築くことに努めた。
事業の実施期間	平成30年5月～平成31年3月20日

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	櫻井敬子	浜松市教育委員会 学校教育部指導課 主幹 教育総合支援センター 外国人グ ループ長
2	佐藤宏明	浜松市 企画調整部 国際課 課長
3	吉開章	①株式会社電通 新聞局／②やさしい日 本語ツーリズム研究会事務局長
4	清ルミ	常葉大学 外国語学部 教授
5	高貝亮	浜松総合法律事務所 弁護士
6	村松正利	村松正利行政書士事務所 行政書士
7	湊健一郎	税理士法人黎明祖父江会計事務所 執行 役員
8	山本智ひろ	静岡県知事直轄組織地域外交局多文化 共生課 課長
9	山城ロベルト	(一社)ブリッジハートセンター東海 代表 理事
10	辻村昌樹	浜松信用金庫 法人営業部 地域活性課 課長代理



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成30年7月16日	2時間	第一伊藤ビル	清、湊、高貝、村松、山本、 櫻井、佐藤、吉開	これまでの事業振り返り、事務局から業務計画を説明し、審議した。
2	平成30年12月3日	2時間	第一伊藤ビル	清、湊、村松、山本、櫻井、 佐藤、山本	中間報告
3	平成31年3月11日	2時間	第一伊藤ビル	清、湊、村松、山本、櫻井、 佐藤、高貝	まとめ、次年度以降の計画について審議

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	<取組1, 2, 3, 4, 5> ※ 受講者募集に近隣の国際交流協会、県西部の市町・国際課、浜松市教育委員会、近隣のNPO法人団体、日本語教育支援団体、地域の企業、教会、フィリピン雑貨店・レストラン等に協力を仰いだ。また、参加人数が多く集まるイベントの主催や参加を通じてさらに募集を掛けた。 ※取組1, 2, 3では、終了後も日本語学習を継続してもらうために、ニーズにあった地域のほかの日本語教室もあわせて紹介した。 ※ 取組1, 2, 4, 5, 7(7は閲覧)については、広く広報した。広報は国際交流協会、市役所市民協働課・生涯学習課、社会福祉協議会、公民館、自治会、近隣のNPO法人、日本語教育支援団体、企業、これまで協力してくれたボランティアなどに行った。 <取組1 ステップアップ教室> ダバオでの説明会では、事前に浜松市教育委員会と連携し、来日前に知っておくべき情報を現地で説明することができた。 <取組3 定住フィリピン人青年のための日本語教室> ※連携先として、青年が体験を通して学べる諸機関に協力を得た…「公共交通機関を使ってみよう(遠州鉄道株式会社)」 「日本での進路について考えよう(浜松市教育委員会)」 「森町町おこし隊」 「すずかけセントラル病院」 <取組4 BAYANIHAN> 公開講座のテーマに即して、後援先を地域の機関に依頼した。(静岡県、浜松市、浜松市教育委員会、税理士法人など) <取組6 日系人の調査> ダバオ日系人協会 ダバオ…日系人会、フィリピン移民局
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	●半場和美 全取組の整合性を図りながら、内部と外部(文化庁、行政、地域の関係機関、指導者、講義補助者、作業補助員等、調査関係者)とを調整し、地域の連携を促進する。円滑な事業遂行のため、全体の指揮を行った。 ●松本義一 指導では主に取組3を、コーディネートでは主に取組3と6を担当する当該地域の行政、学校関係者、支援者たちに「フィリピン人青年の特性を考慮したサポートについて」提案した。 ●鈴木エバ 取組2と4において、定住フィリピン人と母語を介して、日本語指導に取り組む。運営委員会にも参加した。
----------	---

3. 各取組の報告

＜取組1＞											
取組の名称		ステップアップ教室									
取組の目標		定住フィリピン人がコミュニティ内に埋没するのを防ぐために、地域のキーパーソンが彼らの来日背景や生活環境を把握すること。また、ブラッシュアップすること。									
取組の内容		6月9日…通訳・翻訳のスキルと心がけ(通訳、翻訳業務にあたる支援者または支援活動を始めたい人を対象に実施。プロの通訳、翻訳者になるために必要な能力や勉強方法、キャリアの積み方などを実際に法廷通訳にあたっている講師より講義を受けた) 6月9日…SNSの危機管理、安全設定の見直し(定住外国人の間でFACEBOOK、インスタグラムをはじめとするSNSは無くしてはならないものとなっている。ウェブ上のコミュニティで得る情報の影響力は大きいため、発信者となえる人々に発信内容のマナーやモラルを確認した。また、自身のSNSを安全に管理するため、設定を見直した。) 通訳者・日本とフィリピンの教育制度(現地学校の様子)…9月以降／講師：浜松市教育委員会学校教育指導課教育相談グループ)、松本義一 1月12日…バイリンガル支援者に必要な知識とは①(浜松における定住フィリピン人の来日背景や生活環境を、過去の講座で様々な講師から教えてもらったこと、活動の中で得たことを整理し、参加者と共有した) 3月9日…バイリンガル支援者に必要な知識とは②(支援者として必要な知識をクイズ形式で確認した) 3月9日…フィリピンの教育事情とダバオ来日前ガイダンスの報告(滞日する子ども支援に役立てられるよう、フィリピンにおける教育事情をマナbbだ。また、夏に本事業においてダバオにて実施した「来日前ガイダンス」の状況も報告した。この報告会はフィリピンの移民局が関心を寄せてくれ、次年度以降は連携して実施することに繋がった。									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		学齢期の子どもたちは来日後、教育委員会を経て市内各学校へ通うことになる、学校からは外国籍の子供達の学習や、保護者への伝達についての苦勞を聞いている。そのため、教育委員会と打ち合わせをし、事前に資料をいただいたうえでダバオでの説明会を実施した。バイリンガル支援者に必要な知識については、行政書士の先生方数名と連携を図った。そのほか、講座の広報は静岡県、浜松市、近隣の国際交流協会・NPO団体、フィリピン人が多くいる教会やレストランなどに広報や後援の協力を得た。									
取組による日本語能力の向上		6月9日の通訳・翻訳の心構えでは、実際のニュース動画を見ながら、それを同時通訳するというトレーニングを実施した。3月9日のバイリンガル支援者に必要な知識では、独学で日本語力を伸ばすための勉強方法についても紹介した。									
参加対象者		通訳者、翻訳者、学校教育関係者、行政担当者、企業の採用担当者、日本語教師、日本語ボランティア、行政書士など					参加者数 (内 外国人数)		63人(33人)		
広報及び募集方法		当会ホームページ、浜松市教育委員会、浜松市国際課、近隣の国際交流協会、各NPO団体、当会スタッフの友人(クチコミ)、フィリピンレストラン、教会、マスコミ、過去に当会が主催する事業でボランティアをしたことがある人など、ウェブや紙媒体で広報した。									
開催時間数		総時間 8 時間(空白地域時間)					内訳 2 時間 × 3 回 + 1時間 × 2回				
主な連携・協働先		静岡県、浜松市、近隣の国際交流協会、浜松市教育委員会、弁護士、行政書士、税理士、社会保険労務士、地域の様々な団体が行う日本語教室、企業、大学などに対して広く本活動を紹介した。									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)		中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
										33	30
※該当する場合のみ											
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要			講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成30年6月9日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	日本人4名、フィリピン人11名	通訳・翻訳のスキルと心がけ	通訳・翻訳者に求められる資質やレベル、実際のトレーニング法について			高畑幸	高井マリ、半場和美、白方ジョイ	
2	平成30年6月9日(土) 15:30～17:30	2	南部協働センター	日本人2名、フィリピン人8名	SNSの危機管理	支援員としてウェブのセキュリティ見直しと、心構えについて			平原エテル	高井マリ、半場和美、白方ジョイ	
3	平成31年1月12日(土) 16:00～17:00	1	南部協働センター	日本人8名、フィリピン人5名	バイリンガル支援員に必要な知識とは1	定住フィリピン人を取り巻く環境を知る			半場和美	—	
4	平成31年3月9日(土) 9:00～10:00	1	南部協働センター	日本人8名、フィリピン人5名	バイリンガル支援員に必要な知識とは2	地域の事情や在留資格について			半場和美	松本義一	
5	平成31年3月9日(土) 10:00～12:00	2	南部協働センター	フィリピン人8名、フィリピン人4名	ダバオ報告会	8月にダバオにて実施した「来日前ガイダンス」の報告会			松本義一	—	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 30年6月9日】

法廷通訳者でもある講師、高畑幸氏(静岡県立大学国際音楽学部、准教授)より、通訳業、翻訳業をプロの仕事として引き受ける際の心得を学んだ。また、そうした仕事を得るまでにどのような道すじがあるのか、方法を教えてもらった。



○取組事例②

【第5回 31年3月9日】

日本とフィリピンでは子供達教育事情が大きく違う。来日した子どもに対して、その両方の違いを把握して支援にあたるか、把握せずにあたるかでは状況が大きく変わってくる。そのため、講師で当法人副理事長の松本より、フィリピンの教育現場について報告した。また、夏にダバオにある日系人協会で実施した「来日前ガイダンス」についても報告した。報告では、浜松市教育委員会より事前に協力を得て説明会を実施したことや、報告会に参加した人々のごこと、報告会で聞かれた質問やその対応についてを説明した。



(2) 目標の達成状況・成果

本当に必要だと感じている参加者には熱心にリピートして参加してもらえた。

通訳の仕事の種類に逐次通訳、同時通訳、サイトトランスレーションと種類があることを初めて知ったという声も聞かれた。

現在高校生という第二世代の子供も参加しており、通訳という仕事に興味を持ってもらったことも将来につながる大きな一歩となった。本人は医療現場で働きたいとのこと。

通訳者は人が人を助けるための大事な仕事だという感想があり、講座を通して通訳者としての責任や自覚が芽生えたという感想をいただいた。そして、今後、もっと的確に通訳できると思う、もっと勉強したいということで、通訳者たちの活力にもつながった。

「ちゃんと教えてくれてよかった」という感想は、本地域に通訳者や支援者たちがスキルアップする場が少ないことを示唆している。

「通訳者、翻訳者にも情報交換の場が必要だと思いました」という声も多く聞かれた。

(3) 今後の改善点について

通訳者、支援者が業務で直面することやよくある事例、実際にあった事例で参考になることを取りまとめて、こうした業務に関わる人たちと共有したり勉強できる場を折に触れて提供していきたい。また、当法人だけで限界があるので、地域に人材が増えるよう行政に協力を仰いで実施していきたい。

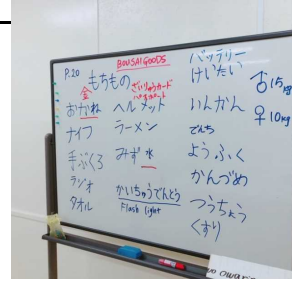
＜取組2＞											
取組の名称		バヤニハン日本語教室(中区クラス、浜北クラス)									
取組の目標		●「日本語教室に行ったことがない」「地域に日本語教室があるのを知らない」といった人たちのニーズと学習意欲を引き出し、生活に必要な日本語を教示すること。これにより、定住フィリピン人がコミュニティ内に埋没するのを防ぐこと。 ●日本語学習者と近隣住民にとって、互学互恵となること。									
取組の内容		＜中区クラス＞ 生活に必要な情報提供と日本語を学んだ。学習者の声をもとにテーマを決めて実施した。 ＜浜北クラス＞ 自律学習の方法について、折に触れて紹介した。 内容は近年、本地域に多い自然災害の種類や実際の災害時に必要な対応を学んだ。(災害の種類を聞き取れるようニュース番組の動画を見たり、防災マップを作成して知っておくべき日本語を整理した)また、学習者から不安の声が聞かれる病院で必要な日本語を学んだ。									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		文字支援や会話のパートナーには日本人ボランティアに協力を得た。本事業の他の取組とも関連を持ち、取組2の充実を図った。									
取組による日本語能力の向上		文字支援や会話のパートナーにボランティアを入れたことで、授業についていけない生徒にもフォローすることができた。また、ネットでバヤニハンを活用し、授業外の場でも生徒に日本語学習の機会を提供できた。									
参加対象者		定住フィリピン人、日本人住民					参加者数 (内 外国人数)		60人 (55人)		
広報及び募集方法		当会ホームページやイベント、浜松市教育委員会、浜松市国際課、近隣の国際交流協会、各NPO団体、当会スタッフの友人(クチコミ)、フィリピンレストラン、教会など、過去に当会が主催する事業でボランティアした人、企業、定時制高校などへウェブや紙媒体を使って広報した。									
開催時間数		総時間 26 時間(空白地域 時間)					1回 2時間 × 13回(中区10回、浜北3回)				
主な連携・協働先		静岡県、浜松市、近隣の国際交流協会、浜松市教育委員会、企業、地域の様々な団体が行う日本語教室などに広く参加者募集呼び掛けと活動報告をし、周知を図った。									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
									31	7	
※該当する場合のみ											
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			
1	平成30年6月16日 (土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	フィリピン13人 日本1	自己紹介、オリエンテーション	自己紹介とあいさつが言えるようになる	鈴木エバ	半場和美(指導補助)			
2	平成30年6月23日 (土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	フィリピン8人 日本1	自分について書く	名前、住所、ひらがな、カタカナ	鈴木エバ	半場和美(指導補助)			
3	平成30年7月7日 (土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	フィリピン10人 日本1	注文の仕方	飲食店での注文で使う日本語を学ぶ	半場和美	—			
4	平成30年7月14日 (土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	フィリピン12人 日本2	葬式について	お盆と葬祭について	半場和美	—			
5	平成31年2月9日 (土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	フィリピン6人 日本1	仕事を探す	求職票に使われている言葉	半場和美	—			
6	平成31年2月16日 (土) 13:30～15:30	2	福祉交流センター	フィリピン7人 日本3	区役所の手続き	区役所の利用について	半場和美	—			
7	平成31年2月23日 (土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	フィリピン6人 日本2	労働	仕事に関する言葉	半場和美	—			
8	平成31年3月2日 (土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	フィリピン8人 日本3	学校行事	学校行事を知る	半場和美	—			
9	平成31年3月9日 (土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	フィリピン7人 日本2	年間行事	学校行事復習、年間行事を知る	半場和美	—			
10	平成31年3月16日 (土) 13:30～15:30	2	福祉交流センター	フィリピン6人 日本2	まとめ	これまで使用した教材を使って、要点指導	半場和美	—			
11	平成31年3月3日 (日) 13:00～15:00	2	浜北文化センター	フィリピン6人	申込書の書き方	一般的な申込書のフォームを使って記入する	松本義一	鈴木エバ(指導補助) 半場和美(作業労務当補助)			
12	平成31年3月10日 (日) 13:00～15:00	2	浜北文化センター	フィリピン4人	防災ポスター制作	自宅住所、自宅近くの避難所、持物や必 定事項をポスターに書きまとめる	半場和美	鈴木エバ(指導補助)			
13	平成31年3月17日 (日) 13:00～15:00	2	浜北文化センター	フィリピン4人	病院	～科、身体の一部を覚える、医師に症状を伝える	半場和美	鈴木エバ(指導補助)			

(1) 特徴的な活動風景 (2～3回分)

○取組事例①

【第12回 31年3月10日】

災害への備えとして、防災ポスターを制作した。学習者たちとディスカッションしながら、災害時に必要な持ち物を洗い出し、日本語で書く練習をした。持ち物については生活状況により違うので、「自分にとって必要なもの」を書き留めることにした。



○取組事例②

【第13回 31年3月17日】

病院をテーマに「医師へ症状を伝える」「総合病院とクリニックの違い」を勉強した。クラスの最後にはロールプレイで定着を図った。クラスでは多言語問進票の紹介をした。



(2) 目標の達成状況・成果

学習者からこのクラスへの評価、声は下記の通り。

- ・講師がやさしくて、接しやすい。
- ・講師の教え方、テンポがよく勉強になる。
- ・取り上げるテーマが生活に必要なものだった。
- ・新しいテーマを学ぶことが出来た。
- ・漢字がとても難しいと思っていたけど、申込書の書き方を教わってよかった。いつも困っていたので。

以上、講師の評判がよいので今後も学習者がリラックスした環境で学べるよう講師のマッチングに努めたい。

(3) 今後の改善点について

自律学習のあり方はなかなか広がりを感じている。しかし、週1回程度の学習では定着が図りづらいため、対面で学べるもののほか、自宅学習もより一層進めていこうとしている。ツールとしてはFacebook利用者が圧倒的に多い為、そちらを活用するのが良いと考えている。今年度はクイズ形式や教材のアップを中心に実施したが、反響を見ながら投稿手段を臨機応変に対応していく必要がある。

＜取組3＞											
取組の名称		定住フィリピン人青年のための日本語教室									
取組の目標		呼び寄せにより来日したフィリピン人青年に、日本語教室を実施する。日本語教室を通して生活に必要な日本語と自律学習の方法、生活情報を教授し、更に日本語教室で学んだことを体験する機会を設置し日本での生活のスタートを支援する。									
取組の内容		フィリピン人青年が来日後、浜松市で生活をスタートするために必要な、「生活」、「教育」、「仕事」の3テーマから、以下の8トピックを実施した。 6月「公共交通機関」…市内の地理を学び、自ら行動できる範囲を広げる。公共交通機関に関する日本語を学ぶ。 7月「進路について考えよう」…来日後の進路「進学」or「進路」について情報を提供し、サポートする。自律学習に繋がる「日本語の学習計画」についても考える」 9月「日本の文化を体験しよう」…日本の文化を学ぶことを通して、「気候」、「風土」を学び、それに関する日本語を学ぶ。 10月「ものづくり体験」…浜松市の産業を学び、「仕事」のイメージを膨れさせる。製造業に関する「動詞」、「色」、「形」、「数字」などの日本語を選び、学ぶ。 11月「病院の利用方法を知ろう」…自身の住まいに近い病院を探すことや実施に利用方法を体験する。 1月「旅行計画を考えよう」…国内旅行先を選び、調べ、発表する活動から日本地理や発表に関する日本語を学ぶ。 2月「防災について考えよう」…防災知識を学び、緊急事の日本語を学ぶ。 3月「1年間で学んだことを振り返ろう」…上記のトピックから一つ選び、ポスター作成をする。さらに日本語での発表練習を行う。 これらのトピックを実施する中で、スマートフォンを使用した「調べもの学習」に重きをおいた。外国人生活者の多くが、日常生活でスマホの力を借りて生活している。スマホのアプリでも日本語教育に活用できるものがたくさんあるため、その活用についても教室内で説明した。 例えば、11月の病院のトピックでは、「自宅付近の病院を調べよう」という内容で、学習者一人一人がスマホのグーグルで「病院」or「hospital」と検索し、自宅付近にどんな病院があるのかを調べた。病院は見つかるが、病院のホームページの言葉は日本語のみでわからない。その場合に、漢字を調べるアプリを紹介し、生徒らに調べさせた。このようにして、「生徒が自ら学ぶ」という活動を全てのトピックで取り入れ実施した。 また、7月の「進路について考えよう」では、来日してしばらくすると仕事をスタートさせるフィリピン人青年が多いため、日々の隙間時間を使い日本語を学べるように、日本語の学習目標、学習時間数、学習に役立つテキストやアプリを紹介し、自身で学ぶための「学習計画」を考える機会を設けた。その後の教室では、生徒に対して学習計画を聞くなどモニターとして生徒の学習を見守った。これらの教室とフィリピンナガイサのフェイスブック(FNN)がリンクしており、各トピックに関係する内容をFNNでも取り上げ、教室外の学習の促進を図った。									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		●体験学習(社会見学)の実施による協力者・協力団体との連携により以下の体制整備を目指した。 1. フィリピン人青年の存在を社会にアピールし、日本語支援の必要性を顕在化した。 2. 来日直後のフィリピン人青年と既に定住しているフィリピン人青年の交流の機会を設置した。 3. 社会見学(体験学習)の必要性を社会に訴え、外国人生活者の日本語教育の一環として協力者を募った。									
取組による日本語能力の向上		●来日直後に必要となる日本語に優先順位をつけてカリキュラムを組んだ。これにより、フィリピン人青年たちは実生活の中において「すぐに使い、実践すること」ができた。 ●日本での生活をスタートするために必要な知識や情報を、媒介語を通じて提供した。これによりフィリピン人青年たちは、他にはどこでも学べない細かいニュアンスを掴み、体得できた。 ●カリキュラムはテーマに沿って、体験学習型の社会科見学を取り入れた。これにより、フィリピン人青年たちは座学の日本語学習だけでは学べない擬似体験をすることができた。この体験が自信につながり、実生活においても「行動に活かすことができた」という声が聞かれた。									
参加対象者		16歳～20歳までのフィリピン人青年					参加者数 (内 外国人数)		20人(19人)		
広報及び募集方法		ハイスニュース、ナガイサHP、イベント、浜松市教育委員会、ナガイサ広報誌・ホームページ、近隣の国際交流協会が持つ媒体広報誌、フィリピンレストラン、教会、新聞社などへウェブや紙媒体で参加者を募った。									
開催時間数		総時間56 時間(空白地域時間)			内訳 3 時間 ×2 回+2時間×25回						
主な連携・協働先		遠州鉄道株式会社、森町地域おこし協力隊、すずかけセントラル病院									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
									19人	1人	
※該当する場合のみ											
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要			講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成30年6月2日(土) 13:00～16:00	3	南部協働センター	9	6月トピック「公共交通機関」	①日本の公共交通機関。 ②電車で行く主要施設を知る。			松本義一	高井マリ	
2	平成30年6月9日(土) 9:00～12:00	3	南部協働センター	8	遠鉄バスでHICEに行く方法を学ぼう	①浜松市内のバス(遠鉄バス・くるる) ②バスで行けるところを知る。 ③HICEへ行く方法を学ぶ。			松本義一	高井マリ	
3	平成30年6月16日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	7	体験学習「バスに乗ってHICEに行こう」	①ナイスバスを作る ②バス乗り場を探して、バスに乗る ③目的地到着後、帰りは電車で帰る。			松本義一	高井マリ	
4	平成30年6月23日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	5	体験学習の振り返り	①体験学習で探した「わからない単語」共有 ②体験して疑問に思ったことを共有			松本義一	高井マリ	
5	平成30年7月7日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	5	7月トピック「進路について考えよう」	①6月のトピックで勉強した「バスの利用方法」の復習を兼ねて、バスで大学まで行く。 ②大学のキャンパスツアーに参加する			松本義一	高井マリ	
6	平成30年7月14日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	5	進路について考える	①就職・進学についての情報を提供する。 ②自身の進路を考える。 ③地域の日本語教室で利用したい教室を探す。			松本義一	高井マリ	
7	平成30年9月1日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	8	9月トピック「日本の文化を体験しよう」	①日本・浜松の気候 ②日本・浜松の風土 ③日本の風景・建物(神社、民家、森、川、道)			平野理絵	松本義一	

8	平成30年9月8日(土) 13:30~15:30	2	南部協働 センター	7	体験場所について調 べよう	①前回勉強した単語を復習しながら、体験 学習で訪れる森町のしおりを完成させる。	半場和美	—
9	平成30年9月29日(土) 13:30~15:30	2	南部協働 センター	5	体験授業「森町を訪 れよう」	①作成したしおりを持参して、森町の神社や 民家を訪れる。 ②日本語学習ワークシートを完成させる。	岩瀬進哉	松本義一、平野理絵、 白方ジョイ、半場和美
10	平成30年10月6日(土) 13:30~15:30	2	南部協働 センター	4	体験授業の振り返り /10月トピック「もの づくり体験」	①体験授業の振り返り ②浜松市のものづくりを調べよう	松本義一	半場和美
11	平成30年10月13(土) 13:30~15:30	2	南部協働 センター	9	ものづくりの言葉	①道具の言葉 ②形・色を表す言葉 ③動作を表す言葉(切る、押す、練る、作る etc)	松本義一	半場和美
12	平成30年10月20日(土) 13:30~15:30	2	福祉交流セ ンター	4	ものづくり体験①	①前回の単語の復習 ②作業を取り入れた復習(紙粘土を使って、 実際に作業させる。例。赤い丸を3つ作ってくだ さい。)	松本義一	—
13	平成30年10月27(土) 13:30~15:30	2	南部協働 センター	4	ものづくり体験②	①ものづくりの言葉(形を表す単語や動作の表現)を復 習する。 ②日本語の説明書を見ながら、「紙粘土」でハロウィンの 飾りを作る。	松本義一	半場和美
14	平成30年11月3日(土) 13:30~15:30	2	南部協働 センター	5	11月トピック「病院の 利用方法について知 ろう」	①病院の「○○科」の種類を知る。 ②スマホを使って自宅付近の病院を調べ る。 ③自宅付近の病院をワークシートにまとめ	松本義一	半場和美
15	平成30年11月10(土) 13:30~15:30	2	南部協働 センター	4	体の部位の言葉を知 る	①体の部位の日本語を学ぶ。 ②症状を伝える日本語表現を学ぶ。	松本義一	半場和美
16	平成30年11月17日(土) 13:30~15:30	2	南部協働 センター	6	総合病院の利用方 法を知る	①総合病院で目にする大切な日本語を学 ぶ。 ②利用方法について学ぶ。	鈴木一也、 松本義一	白方ジョイ、半場和美
17	平成30年11月24日(土) 13:30~15:30	2	南部協働 センター	5	体験学習「総合病 院を利用してみよう」	①病院の受付の流れを見学する。 ②スマホを使って自宅付近の病院を調べよ う。 ③自宅付近の病院をワークシートにまとめよ	松本義一	半場和美
18	平成30年12月1日(土) 13:30~15:30	2	南部協働 センター	4	体験学習の振り返り	①体験学習で探した「わからない単語」共有 ②体験して疑問に思ったことを共有	松本義一	—
19	平成30年12月8日(土) 13:30~15:30	2	南部協働 センター	9	日本の年末年始の 過ごし方	①年末年始に関連した言葉を学ぶ。(年末、 正月休み、大晦日、三が日etc) ②年賀状を書いてみよう。	半場和美	—
20	平成31年1月12日(土) 13:30~15:30	2	南部協働 センター	5	1月トピック「旅行計 画を考えよう」	①講師作成の旅行計画表を見ながら、旅行の話 ②各自で日本国内の観光名所を調べる	松本義一	半場和美
21	平成31年1月19日(土) 13:30~15:30	2	南部協働 センター	6	旅行計画を立てよう	①旅行計画作成シートの説明 ②旅行計画作成シートを完成させる	松本義一	半場和美
22	平成31年1月26日(土) 13:30~15:30	2	南部協働 センター	5	旅行計画を発表しよ う	①旅行計画作成シートを見ながら、ポスター を作成する。 ②旅行計画の発表	松本義一	半場和美
23	平成31年2月9日(土) 13:30~15:30	2	南部協働 センター	6	2月トピック「防災に ついて考えよう」	①災害の言葉を知ろう。 ②災害時の持ち物を考えよう。	松本義一	—
24	平成31年2月16日(土) 13:30~15:30	2	浜松市防災学 習センター	6	体験学習「浜松市防 災学習センターに行 こう」	①公共交通機関を利用して、目的地に行く。 ②施設の見学 ③日本語学習のためのワークシートに取組 む。	松本義一	—
25	平成31年2月23日(土) 13:30~15:30	2	南部協働 センター	6	体験学習の振り返り /自分の避難所を探 す	①体験学習で探した「わからない単語」共有 ②体験して疑問に思ったことを共有 ③自分の住所から近い避難所を探す。	松本義一	—
26	平成31年3月2日(土) 13:30~15:30	2	南部協働 センター	6	3月トピック「1年間で 学んだことを振り返 ろう」	①1年間で学んだことを振り返る。 ②自分が学んだトピックから一つ選びそれを ポスターにまとめる。	松本義一	西村かおり
27	平成31年3月9日(土) 13:30~15:30	2	南部協働 センター	6	日本語でのプレゼン テーションの準備	①ポスター制作の続き。 ②プレゼンテーションの練習。	松本義一	—

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第9回 30年9月29日】

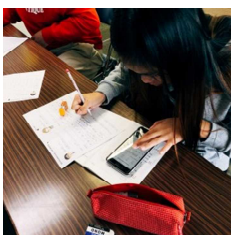
森町地域おこし協力隊と連携し、昔ながらの町屋や商店街を見学したり、ワーク体験をさせていただいた。学習者たちは事前に「遠足のしおり」を作成し、必要な日本語を学んでいた。当日は作成したしおりを元に行動し、また地元の人々と交流を楽しんだ。自撮りをしたい若者が高齢の女性に「写真いいですか」と声をかけ、その方を交えて記念撮影をしたりする場面も見られた。町の人たちも快く学習者たちを迎え入れてくださり、とてもよい雰囲気の



○取組事例②

【第20回 31年1月12日～第27回3月9日】

学習者たちはテーマである「旅行計画」「防災について考えよう」といったテーマで学んだ日本語をポスターに書きまとめ、発表する練習をし準備してきた。ポスターに書きまとめる際にはスマートフォンで分からない言葉を調べるなど、自律学習の姿勢が身についた。また、発表では前に出て行うにふさわしい立ち居振る舞いを意識して準備することが出来た。授業ごとに学んだことが終わりということではなく、2か月かけて準備をし、自分の言葉で伝えるという活動を通して日本語の定着を図った。



(2) 目標の達成状況・成果

来日直後の青年学習者を対象に、浜松市で生活するなら知っておくべき情報や知識・日本語を厳選し、「公共交通機関」、「進路」、「日本文化」、「ものづくり(浜松の産業)」、「病院」、「旅行(浜松市近郊の地理)」、「防災」の7つのトピックを取り上げた。以上の学習内容を通じて、浜松での生活をスタートさせるために必要不可欠な内容を提供できた。発表を踏まえた学習では、友達の原稿を覚えるサポートをしたり、友達が言葉に詰まった時は助け合う姿も見られた。発表の順番が回ってきた人だけでなく、準備の段階からどの学習者も自主的に学習に参加できた点がよかった。

(3) 今後の改善点について

来日直後の青年学習者を対象としてきたが、来日してから数年たった青年層や定住歴の長い主婦層からの受講ニーズも高かった。この点を踏まえ、来年度以降は幅広い層が受講できる教室へ変更することを検討する。

＜取組4＞

取組の名称		BAYANIHAN+（バヤニハンプラス）									
取組の目標		日本語教室で求められる指導内容は、学習者のニーズの多様化に伴いより幅広くなっている。本取組では、下記の目標を掲げ、日本語教育に生かすことを目的として、現在の日本語教育人材に求められる他分野の領域の知識を中心に内容とした公開講座を実施する。 ・これまで連携してきた人や機関とともに培ってきたノウハウを、国籍問わず地域に発信し、還元すること。 ・これにより課題を地域全体で共有し、多文化共生社会への理解をより深めること。									
取組の内容		①119番通報訓練…7月21日／浜松市南消防署 119番通報について訓練した。 ②日本語教育を取り巻く政策的動向を考える…10月20日／講師：神吉宇一（武蔵野大学准教授） 最新の国の動向を聞き、地域における定住外国人、または彼らに接する人々がそれぞれの立場で自身の役割や活動の今後を見直した。 参加者には公的機関職員、市議会議員、支援者、学校教員など幅広く参加してもらえた。 ②やさしい日本語を使ってみよう…8月4日／講師：吉開章（電通） 「やさしい日本語の概要」のほか、「バイリンガル人材が考えるやさしい日本語とは？」「やさしい日本語を使ったワークショップ」を実施した。 参加者とも今後の連携を図ることにつながった。さらに、本講座と全く同じ内容での講座をもう一度実施してほしいと依頼を受け、年度内に行うことが出来た。（ヒューマンアカデミー浜松校より）本講座は31年度には浜松市UD男女共同参画課よりも依頼を受け、実施することが決まっている。 ④税金と社会保険…12月1日／講師：税理士法人黎明祖父江会計事務所 年末調整、確定申告に近い1月に開催日を設定する。これまで開催していない地域での開催を予定。 ⑤命のパスポートを使って…2月2日／静岡県西部地域危機管理局									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		フィリピン人をはじめとする「生活者としての外国人」を取り巻く環境を、「バイリンガル指導者を目指す者」「行政」「近隣の関係諸機関」、「地域住民」に発信する。講義にはワークショップなどを適宜取り入れ、「みんなで考える」場を提供した。									
取組による日本語能力の向上		●（定住フィリピン人の参加者は）それぞれのテーマに沿って必要な日本語を学べた。 ●（そのほかの参加者にとっては）やさしい日本語を見直すなど、定住外国人にとってわかりやすい日本語の伝え方を、テーマに沿って学んだ。									
参加対象者		定住フィリピン人、日本人住民					参加者数 （内 外国人数）		131(74)		
広報及び募集方法		当会ホームページやイベント、浜松市教育委員会、浜松市国際課、近隣の国際交流協会、各NPO団体、当会スタッフの友人（クチコミ）、フィリピンレストラン、教会など、過去に当会が主催する事業でボランティアした人などにウェブや紙媒体で募集をかけた。									
開催時間数		総時間 2 時間（空白地域時間）					1回 2 時間 × 5 回				
主な連携・協働先		静岡県、浜松市、近隣の国際交流協会、浜松市教育委員会、税理士、社会保険労務士、議員、地域の様々な団体が行う日本語教室などから多くの方々に関心をもって参加していただいた。									
受講者の出身 （ルーツ）・国別内訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
									63	67	
※該当する場合のみ											
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	平成30年7月21日（土） 13:30～15:30	2	南部協働センター	フィリピン人30名	119番通報訓練	火事や救急を想定して119番通報の訓練を実施した		浜松市南消防署	鈴木エバ、高井マリ、半場和美		
2	平成30年8月4日（土） 14:00～16:00	2	市民協働センター	フィリピン人5人、日本人33人	やさしい日本語を使ってみよう	やさしい日本語の概要説明／定住外国人が感じるやさしい日本語とは？／やさしい日本語を使ったワーク		吉開章 中村グレイス	松本義一、半場和美、高井マリ		
3	平成30年10月20日（土） 15:30～17:30	2	クリエート浜松	日本人29人	日本語教育を取り巻く政策的動向を考える	日本語教育推進基本法の動向と地域日本語教育の関連について		神吉宇一	半場和美		
4	平成30年12月1日（土） 13:30～15:30	2	南部協働センター	フィリピン人10人	給与明細の見方と年末調整、確定申告	給与明細の見方／所得税や控除について／社会保険制度とは		澤谷智志 湊健一郎	半場和美、白方ジョイ		
5	平成31年2月2日（土） 13:30～15:30	2	南部協働センター	フィリピン人19人、日本人9人	自然災害への備えと対応	静岡県発行の命野パスポートに沿って進行了た		静岡県西部地域危機管理局	半場和美、鈴木エバ、白方ジョイ		

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第2回 30年8月4日】

「やさしい日本語」について周知を図ったり、見直しをしったりするために講座を実施した。内容は3部構成で、①「やさしい日本語とは？」(吉開章)②「バイリンガル人材が経験から感じる、やさしい日本語とは？」(中村グレイス)③「やさしい日本語を使ったワークショップ」として実施した。本講座は地域の支援者のあらゆる方々に聞いていただき、まだまだ広がりを見せる活動となりそうである。



○取組事例②

【第3回 30年10月20日】

日本語教育推進基本法の経緯や最新の動きを交えて、講義をいただいた。在留資格が増え、学習者の来日背景もそれに伴い多様化することが予想される。状況は時代とともに変容していくが、地域で住民同士が接点を持てるような場づくりはどんなときにも重要で、そこに言葉が欠かせないことは変わらないという大切なメッセージが伝えられた。



(2) 目標の達成状況・成果

外国人の受け入れ施策が目まぐるしく変わる昨今、文化庁より委託を受け、地域の支援者の関心が高い講座を実施できたおかげで、より多くの機関から参加いただき、今後の連携にもつながった。これは本事業プログラムB、3年目の集大成として大いなる成果であった。

(3) 今後の改善点について

当法人のスタッフ構成は、日本人の配偶者である中年層の女性が多い。そのため、日本国の受け入れ事情と祖国の送り出し側の事情により来日している新たな層については、自身と背景が違うため、勉強したり情報の更新をしなければわからない点も多い。今後もフィリピン人のための日本社会の入口として団体が機能していくならば、日系人、子供たち、技能実習生、特定技能1号、2号といった幅広い層の人々を取り巻く状況を把握し、会としてブラッシュアップする必要がある。

＜取組5＞											
取組の名称		定住フィリピン人青年の取組成果発表									
取組の目標		発表という体験を通して、定住フィリピン人青年が日本語を学び、日本人との交流を目的とする。									
取組の内容		取組3の「定住フィリピン人青年のための日本語クラス」で実施した全7トピックの中から、生徒が1つ選びポスター作成並びにスピーチを行った。取組3の中では、各トピックの中で、「成果物作成」、「スピーチ」を行っており、その集大成としてのポスター発表であった。スピーチでは態度や姿勢、表現に気をつけ、メモなどを見ずに発表できるように準備をした。 生徒の多くが、直近の「防災について考えよう」をポスター作成の題材としたポスターを作成した。 あるポスターを例に出すと、以下のような内容で構成されていた。 ①私の避難所(地図入り)、②私の住所、③災害の言葉、④災害時の持ち物 当日は、フィリピン人家族や日本人支援者など50名を越す人々の前で発表することができた。									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		一般市民、行政、国際交流協会、日本語教育関係者へ発表会のお知らせを出した。									
取組による日本語能力の向上		取組発表では、テーマの内容を書きまとめ、何度も声に出して読む練習をし、暗記した。ポスター作成・スピーチ原稿作成と日本語能力の4技能を全て使う。また、発表中の立ち振る舞いも大切である。以上の能力を向上させることができた。ひとつのテーマについて、自分の言葉で書きまとめ発表まで仕上げ、時間をかけて向き合うことができたことで、記憶にも残る学びになった。									
参加対象者		16歳～20歳までのフィリピン人青年				参加者数 (内 外国人数)		11人(6人)			
広報及び募集方法		当会ホームページ、浜松市教育委員会、浜松市国際課、近隣の国際交流協会、各NPO団体、高校教員、企業、ボランティアなどフィリピン人青年が接するところへ広報した。趣旨を伝えるため、対面での広報に力を入れた。									
開催時間数		総時間 2 時間(空白地域時間)				内訳 2 時間 × 1 回					
主な連携・協働先		静岡県、浜松市、近隣の国際交流協会、浜松市教育委員会、地域の日本語教室、企業、高等学校など、フィリピン人青年が関わるところへは、日本の小中学校を卒業していない若者の存在をアピールしている。									
受講者の出身 (ルーツ)・国内別 訳(人)		中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
※該当する場合のみ										6	5
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	平成31年3月16日(土) 13:30～15:30	2	福祉交流センター	フィリピン人6名、日本人5名	スピーチ	クラスで学んだことをスピーチの立ち振る舞いを意識して、日本語で発表した		松本義一	—		

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 31年3月16日】

取組発表会では、事前に学習者が青年クラスで作成した「私の避難所」という防災に関するポスターを掲示し、そのポスターについて日本語で説明した。スピーチ原稿を作成していたが、取組発表会ではそれを見ずに発表した。



(2) 目標の達成状況・成果

取組発表会の機会を設けることで、日本語でのスピーチや立ち振る舞いを学ぶ機会を作ることができた。それにより、学習者はスピーチの始め方・終わり方、立ち振る舞い、スピーチに必要な日本語表現などを身につけることができた。発表のために何度も練習を重ねたことで何度も復習する機会を得て、日本語の定着を図ることが出来た。

(3) 今後の改善点について

今回の取組発表会は、講師が雛形を作成し、それを利用して生徒はスピーチを作成した。そのため簡単な文章での発表が多くなった。しかし、学習者の日本語力には差があり、より複雑な表現を使用したい生徒もいる。今後はこれらの生徒のニーズを汲み取り、文章作成の段階で幅広い表現を使用するチャレンジができるようにスピーチ作成の幅を持たせた発表方法を考える。

＜取組6＞											
取組の名称		ダバオに暮らす日系フィリピン人のための日本語学習、情報提供の会									
取組の目標		フィリピン南方から来日するフィリピン人が増加し、呼び寄せた子供が直面する進路や日本語能力の問題、日本社会に対する知識や情報が不足しているといった点は引き続きことが予想される。「来日後」によくある事例」を現地にも情報提供しておくことで、来日前の意識にも働きかけを行う。また、この場で来日してすぐに使える日本語も指導する。人々の来日に対する傾向をつかみ、今後の活動に活かす。									
取組の内容		現地において、日本での生活に関する情報提供を実施した。（学校、生活、仕事、行政サービス、異文化理解など） フィリピンと日本の学校教育の違い（学制や文化）等を示した資料を浜松市教育委員会より提供していただき、現地にて説明会を行った。この報告会を取組1にて実施した。									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		教育委員会の協力を得て、事前資料を準備することができた。また、現地では日系人協会と連携を図ることで、近いうちに来日することが確定している親子に対して、ピンポイントで来日前ガイダンスを実施することができた。この説明会は現地や日本でも高い評価を得て、次年度はフィリピン移民局との連携で実施する事に繋がった。									
取組による日本語能力の向上											
参加対象者		現在はフィリピンに暮らしており、今後来日を検討している未成年とその保護者					参加者数 (内 外国人数)		160人(150人)		
広報及び募集方法		フィリピン日系人会インターナショナルスクールの協力の下、学校からのチラシ配布・掲示板・フェイスブックなどで募集を募った。また、NPOフィリピンナガイサのホームページやフェイスブックでも開催の広報を行った。									
開催時間数		総時間 9 時間(空白地域時間)					内訳 3時間 × 3回				
主な連携・協働先		フィリピン日系人会(ダバオ市)、フィリピン日系人会インターナショナルスクール ラナン校、フィリピンインターナショナルスクール カリナン校、浜松市教育委員会(現地で配布する資料を提供)									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
									150	10	
	※該当する場合のみ										
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			
1	平成30年8月24日(金) 8:00～11:00	3	フィリピン日系人会インターナショナルスクール カリナン校	85	来日前ガイダンス	来日予定の日系人家族・児童生徒に対して、来日前の準備や役立つ日本語を教授する。	松本義一	—			
2	平成30年8月24日(金) 11:30～14:30	3	フィリピン日系人会インターナショナルスクール ラナン校	45	保護者のための来日前ガイダンス	来日予定の日系人家族・児童生徒に対して、来日前の準備や役立つ日本語を教授する。	松本義一	—			
3	平成30年8月24日(金) 14:30～17:30	3	フィリピン日系人会インターナショナルスクール ラナン校	30	特別日本語クラスのための来日前ガイダンス	来日予定の日本語を母語とする児童生徒に対して、来日前の準備や日本語学習の仕方について教授する。	松本義一	—			

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 30年8月24日】

フィリピン日系人会インターナショナルスクール カリナン校にて、来日前ガイダンスを実施した。カリナン校は日系人家族が多く住む地域にあり、実施にこれから来日する計画のある児童生徒・保護者が多く訪れた。ガイダンスの中では、来日後によくあるトラブル事例を提示しながら、その対策(来日前の準備)と知っておいて役立つ日本語を教授した。



○取組事例②

【第3回 30年8月24日】

フィリピン日系人会インターナショナルスクール ラナン校にて、日本語を母語とする児童生徒(特別日本語クラスの生徒)を対象に実施した。ガイダンスの中では、「来日後によくあるトラブル事例」を提示しながら、その対策(来日前の準備)と知っておいて役立つ日本語を教授した。また、来日後の進路についての質問が多く実際の高校進学の方法などについても説明を行った。



(2) 目標の達成状況・成果

多くの参加者が集まったことで関心の高さが伺えた。来場者の多くは来日予定者であり、彼らに対して「来日後によくあるトラブル事例」を提示し、そのようにならないための対処方法を説明できた。また、日本語を母語とする日本語特別クラスの日本語教師から、ガイダンス後の授業の中で、ガイダンスの振り返りと自分自身の将来について話し合いを持ったとの報告を受けた。このように来日する前に、来日後の自身の生活について考える機会を提供できたことは大きな成果である。

(3) 今後の改善点について

来日後のよくあるトラブル事例の中で「高校進学」についての話がある。来日前に進学準備をする必要があるが外国籍生徒の高校進学については、各県で入試制度や在学中のサポートなどが異なるため、来日前の準備を行うことが難しい。各県の入試情報を整理し、提供できるように改善していく。

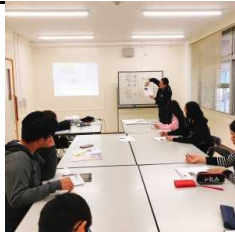
＜取組7＞											
取組の名称		ネットでバヤニハン									
取組の目標		●「日本語を勉強したいけど、教室に通うことが出来ない(定期的に教室へ通う時間がない、遠隔地のため、交通費の支払いが苦しい)」と言った人たちの日本語学習を支援する。 ●ネット上(当会のホームページ上を予定)に情報掲載するだけでなく、定住フィリピン人の在住地域へ赴き、役立つ情報提供やeラーニングの使い方などを支援する。赴くことで顔のわかる関係を築く。									
取組の内容		①過去、当会で作成した日本語学習教材を掲載してあるので、その使い方をサポートした。 ②自然災害(本地域においてとくに想定されている地震、集中豪雨、洪水)についての備えと、発生時の対応で役立つ情報や、生活情報を提供した。(専用のFacebookコミュニティの開設) ③①と②について、複数回、実際に定住フィリピン人が暮らしている地区に赴き、eラーニングの方法やネットを使った情報収集について説明会かいとなるような日本語教室を実施した。(湖西市、浜北区)									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		フィリピン人が抱える様々なコミュニティへのアクセスを強化した。たとえば教会や飲食店、ドライビングスクール、雑貨店、バスケットボールチームなど。									
取組による日本語能力の向上		浜松市に暮らすフィリピン人ですでにフィリピンナガイサと接点を持っている約500名とFacebook上でつながった。この中から湖西市と浜北区は対面で授業を実施し、自律学習の推進を図った。									
参加対象者		浜北区と湖西市に暮らしているフィリピン人、そのほか市内全域に暮らすフィリピン人					参加者数 (内 外国人数)		12人(12 人)		
広報及び募集方法		当会ホームページ、浜松市教育委員会、浜松市国際課、近隣の国際交流協会、各NPO団体、当会スタッフの友人(クチコミ)、フィリピンレストラン、教会などへウェブや紙媒体で募集告知した。									
開催時間数		総時間 4 時間(空白地域時間)					内訳 2 時間 × 2 回				
主な連携・協働先		湖西国際交流協会、浜北区内の教会、浜北区内の小中学校									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
									12		
※該当する場合のみ											
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	平成31年2月24日(日) 13:00~15:00	2	浜北文化センター	7	スマートフォンを使った災害への備え、学び	自然災害に関する用語を調べてみる ／実際のテレビ放送を視聴して意味を確認する		松本義一	半場和美(作業補助)、鈴木エバ(指導補助)		
2	平成31年3月10日(日) 13:00~15:00	2	鷺津防災センター	5	自律学習とは	自律学習の方法、生活のための日本語		松本義一	児玉ヘレン(作業補助)		

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 31年2月24日】

自然災害をテーマに設定し、自然災害の言葉を学習する際に、それらを調べるスマホアプリやウェブサイトを紹介し、自ら調べながら学習する方法を体験させた。調べ物学習の時間を設け、その際に役立ったスマホアプリなどを紹介し合う時間を設けて、学習者同士の日本語学習の情報交換の機会も設けた。



○取組事例②

【第2回 31年3月10日】

自律学習の仕方を学ぶことをテーマに行った。学習者のレベルチェック、目標設定、学習計画、学習素材などについて、学習者と話し合いながら自律学習についての理解を深めていった。学習者の多くが、スピーキング、リスニングはある程度高いレベルではあるものの、ライティング・リーディングに関しては、ほぼゼロであったため、識字学習について役立つ教材(スマホアプリ、ウェブサイト、eラーニング、FNNなど)を紹介し、実際に利用して識字学習を行った。



(2) 目標の達成状況・成果

自分自身で日本語学習を進めていくために役立つ教材を複数紹介できたこと、実際にそれらを使用しながら授業中の課題を解く体験を提供できたことが成果である。これらの成果から「日本語教室に來られない学習者のための日本語学習支援」と「日本語学習に役立つ教材などの情報提供」という2つの目標を達成できたと言える。実際に、教室実施後のアンケートからは、授業内容に満足しているという回答であった。

(3) 今後の改善点について

日本語教室に通う時間はないが、日本語学習をしたいというニーズは今後も高まっていくことが予想される。しかしながら、今回のような取組を各地域で何度も開催することは困難である。そのため、今後はホームページやSNSを活用し、「セルフスタディの仕方」や「日本語学習に役立つ情報」などについて動画で説明していくような試みを計画する。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

- ①定住フィリピン人がコミュニティ内に埋没するのを防ぐこと。
- ②これまで連携してきた人や機関とともに培ってきたノウハウを地域に発信し、還元すること。
- ③永住、定住傾向にあるフィリピン人に対して、「座学＋α」の付加価値を付けた日本語教室を開催すること。また、各学習者が自身の限られた時間を活用し日本語学習ができるよう、自己学習のHow toについても教授すること。(自律学習の必要性を伝える)
- ④「生活者として」の新しい層であるフィリピン人青年(以下、定住フィリピン人青年)の将来を見据えた支援を行うこと。
- ⑤日本語がわからないことで生活に支障が出るようなケースについて対応できる、地域で活躍できるバイリンガル人材を支えること。(国籍問わず)
- ⑥「生活者としての外国人(以下、定住外国人)」の増加を見越し、彼らを取り巻く環境について対応するため、事業費の安定的な確保を検討していくこと。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

- ①自律学習を進める上で、学びをサポートする場を設けることが出来たので、今後はそれを活用していく道筋をつけていきたい。
- ②公開講座ではより多くの人々に内容を聞いてもらうことが出来た。
- ③体験学習を通して、単なる語学学習に留まらない内容を学ぶことができた。
- ④青年に関しては毎回授業後半にスピーチの練習をしたことで、緊張感をもって日本語を身につけることが出来たと思う。最終回では堂々と仲間や日本人参加者の前で発表することができた。
- ⑤取組1のステップアップ教室で、求められる人材像についてのイメージを伝えることができた。また、具体的な勉強方法についても学ぶことが出来た。
- ⑥資金調達方法を委託事業のほかにも拡充し、人材確保できるように努めている。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

フィリピン人への呼びかけはもとより、今年度はより一層日本社会からの問い合わせが増え、期待を感じた。活動の周知を推し進めていることにより、企業からの問い合わせも増えている。取組4のやさしい日本語講座に関しては今後も広がりを持った展開に続くきっかけを作ることが出来た。夏に実施した同講座だが、12月にはヒューマンアカデミー浜松校より依頼を受けて、再度文化庁事業とは別の形で実施することに至った。さらに31年度は浜松市UD男女共同参画課との連携が決まっている。取組6のダバオでの来日前ガイダンスについては31年度、フィリピン移民局と連携して実施することが決まった。プログラムBの地域連携という点については様々な展開へと発展し、成果を上げたものと考えられる。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

自主事業でフィリピン人が多く集まるイベント内容を吟味して実施した。こうした場で本事業の周知を図るべく対面で定住フィリピン人に声をかけていった。また、スタッフが学校支援等でつながりのある生徒や保護者へ教室の参加を促した。多くのフィリピン人はチラシを見るだけでは参加につながりにくい。顔のわかる関係から参加に繋がるがあるので、そういった状況を大切にしたい。一方で日本社会側へは積極的にウェブ上での広報を充実させた。今年度はホームページとFacebookの連携を図り、計画的に周知活動を進めた。そのためか、マスコミからの問い合わせが今年度はさらに増加し、さらなる活動の周知が図れており、好循環につながっている。

(5) 改善点、今後の課題について

当地域に暮らす定住フィリピン人の在留資格が多様化し、これまでキーパーソンとして活躍してきた日本人の配偶者である中高年の女性たちの手に負えなくなってきている。また、同胞の中にも接点に偏りがあり、日系人や身分資格以外の人たちとの縁が強いとは言えない。一方、日本企業からは技能実習生の週末の過ごし方を心配して当法人の活動に生徒を連れてくるケースも見受けられるようになった。今後はさまざまな層のフィリピン人の来日が予想されるが、「日本社会の入口としての機能(生活日本語の教授、生活情報提供)」に変わりはないので、接点の方法を模索しながら活動を続けていく。

(6) その他参考資料 ※携帯番号の記載があるチラシはHPIには掲載していません。

★チラシ

取組1(6月9日通訳者の心構え、6月9日SNS危機管理)

取組2(バヤニハン日本語教室中区／日本語とタガログ語)

取組3(青年教室／日本語とタガログ語)

取組4(7月21日119、8月4日やさしい日本語、10月20日日本語教育推進基本法、12月1日税金)

取組6(ダバオガイダンス)